

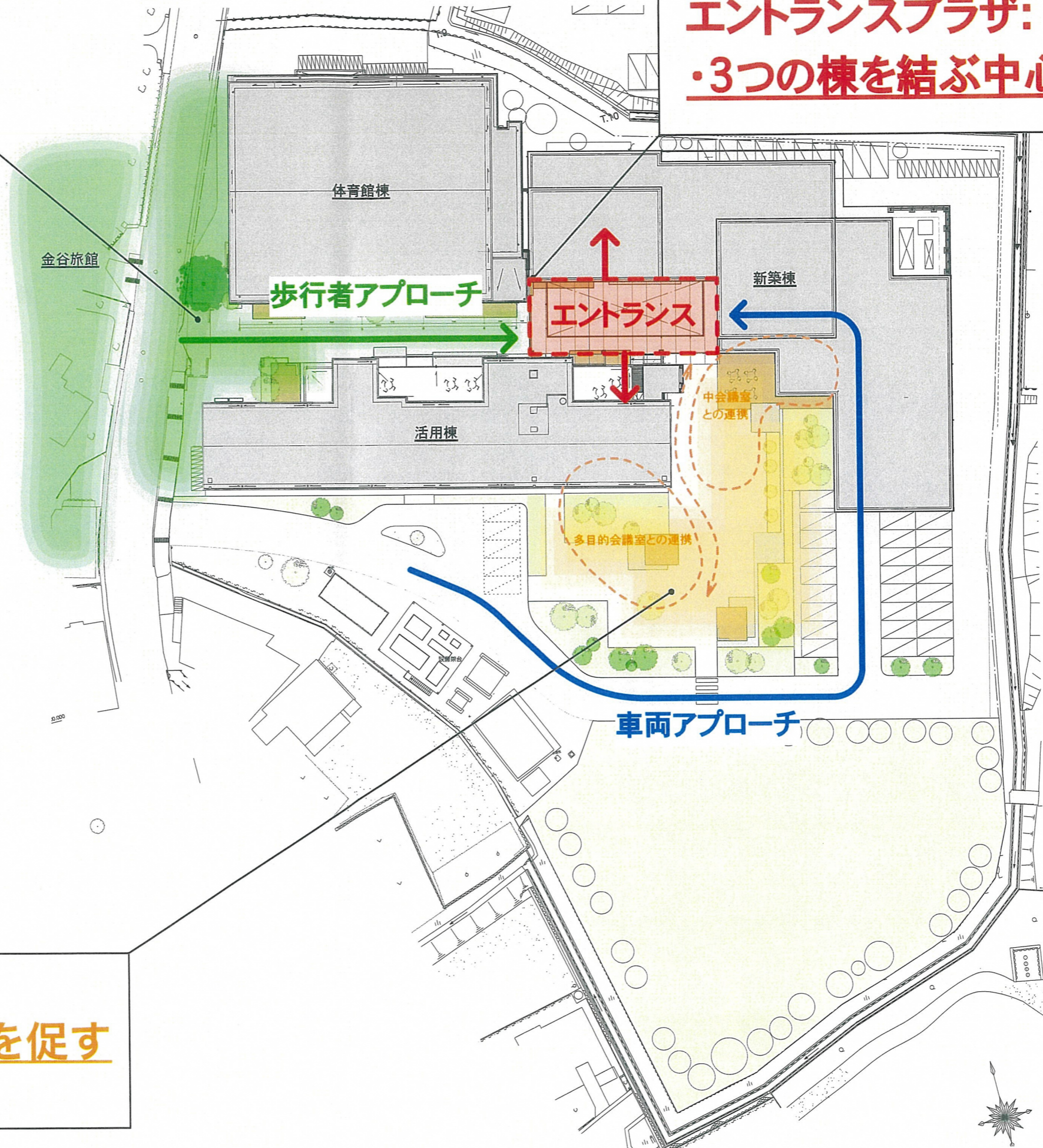
西側の景観:

・まちとつながり来庁者を迎える市役所の顔

・学校の面影を活かしつつ周囲と調和し、足を踏み入れたくなるアプローチ

エントランスプラザ:

・3つの棟を結ぶ中心的空間



南側の景観:

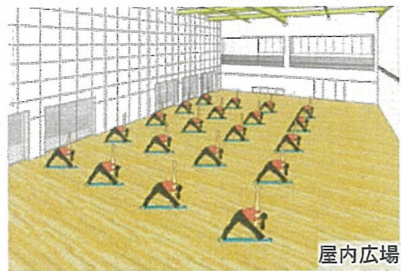
・明るい雰囲気により交流を促す
・陽だまりのような広場

エントランスプラザを中心とした、コンパクトでわかりやすい平面計画

○1階:学校であったことを活かして地域に開き、多様な人々がゆるやかに対話できる空間

- ・1階は地域住民や近隣の学校も利用可能な開かれた空間とし、世代を超えた交流が生まれる配置とします。
- ・車と歩行者の動線を明確に分けることで、両者にとって使いやすく、安全な計画とします。
- ・平日は庁舎として、休日は市民の交流拠点として、また災害時は受援拠点として、多様な活動を支援する配置計画とします。

1階はできる限り地域に開かれた場所として市民の交流を促す居場所を計画します。

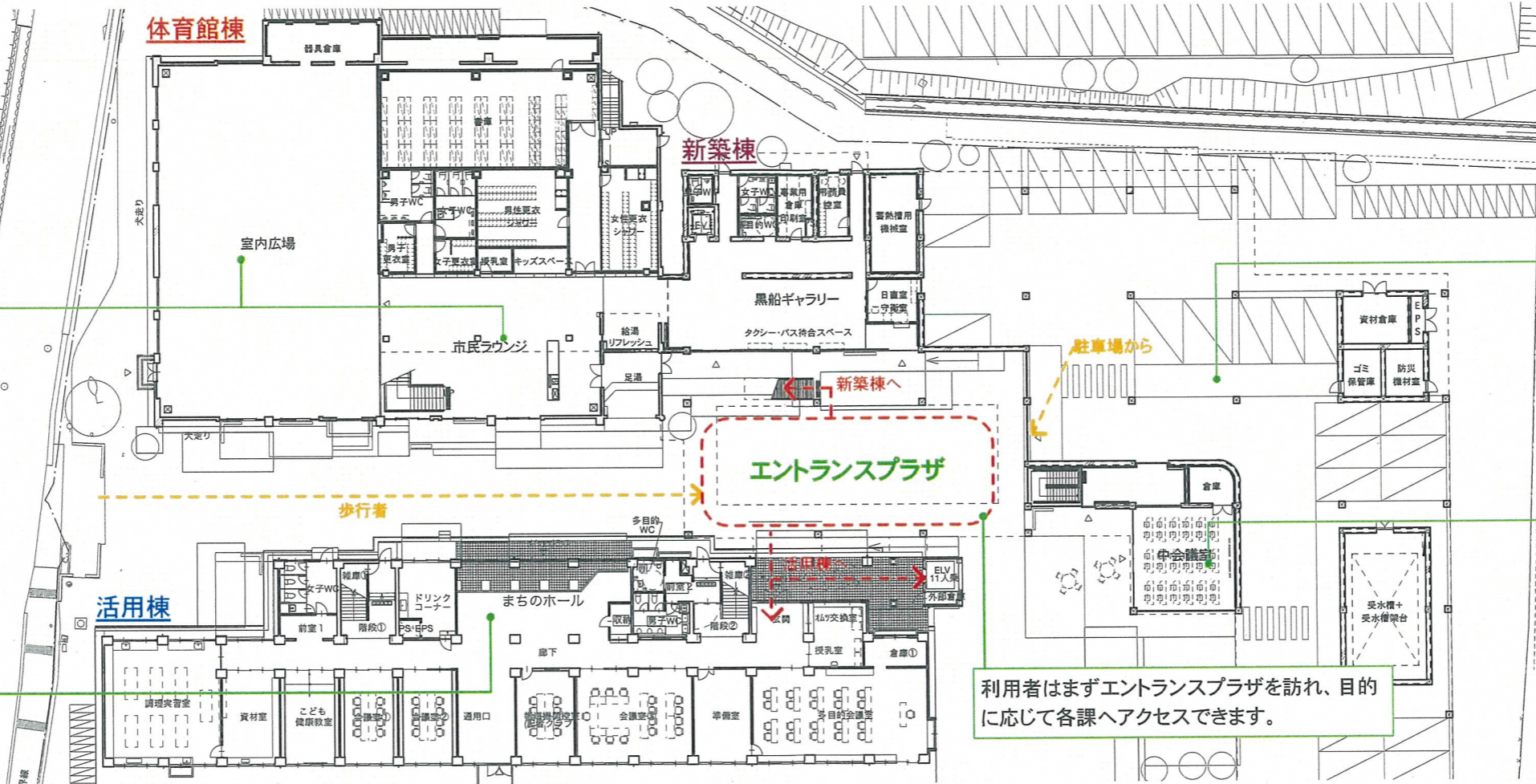


屋内広場



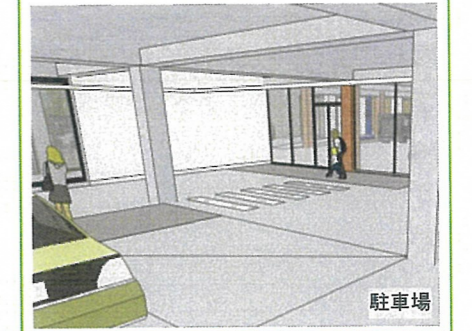
市民ラウンジ

旧昇降口には展示機能を設えた「まちのホール」を設置します。地域の住民や、蓮台寺駅を利用する下田高校の生徒の利用など、対話が生まれる空間とします。



利用者はまずエントランスプラザを訪れ、目的に応じて各課へアクセスできます。

駐車場から雨に濡れずエントランスプラザにすぐにアクセスできます



駐車場

中会議室は1階に配置し、学生の部活動など、地域の方々も利用しやすい配置とします。

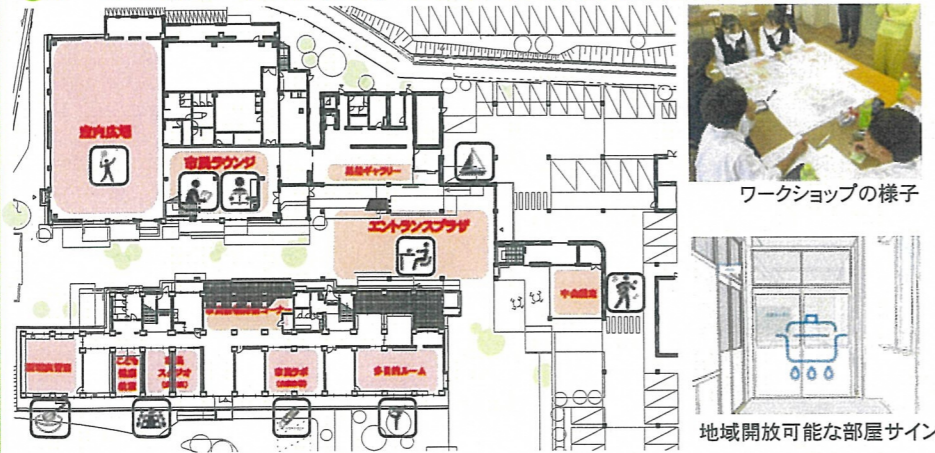


中会議室

○建築概要

	延床面積	構造種別	階数
体育館棟	1538㎡	SRC+S造	地上2階
新築棟	1758㎡	RC造	地上2階
活用棟	3082㎡	RC造	地上4階
敷地面積	16,268㎡		

○ワークショップで市民の声に応える「地域に開かれた庁舎」

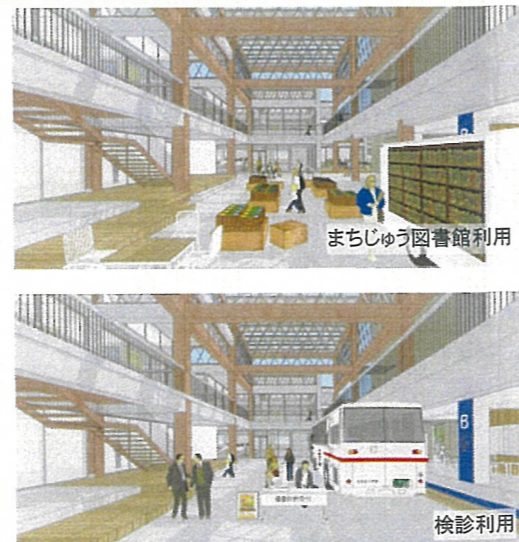


ワークショップの様子

地域開放可能な部屋サイン

- ・地域の人を対象としたワークショップで意見の多かったバスや電車での待ち時間、放課後の自習や部活動、地域サークルの活動などで日常的に使える共用空間を1階に多く配置します。
- ・より市庁舎に親しみをもってもらえるよう、1階の地域開放可能な部屋には、わかりやすいサインを配置します。

○多様な活動に対応するエントランスプラザ

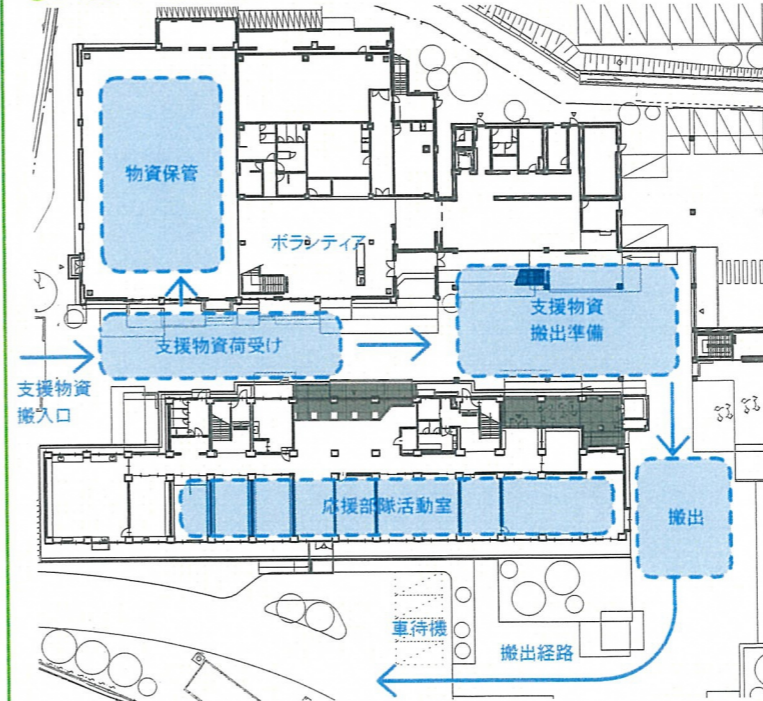


まちじゅう図書館利用

検診利用

・エントランスプラザには、検診車等の大型車侵入可能で検診利用や移動図書館と連携したまちじゅう図書館イベントなど多様な市民ニーズに応える多機能空間とします。

○災害時も防災拠点として継続可能な庁舎



荷受けスペース



ボランティアスペース



荷捌きスペース



物資保管スペース

- ・屋内広場やエントランスプラザなどの広い空間を活用し、物資拠点として、また応援部隊の活動拠点として一連の動線で様々な復旧活動行えるような計画とします。
- ・水害に対して安全な2階に庁舎機能を集約します。
- ・非常時の電源供給を行う非常用発電機を計画し、停電時も3日以上電力を供給可能な計画とします。
- ・災害時、井水を水源とした雑用水設備等を計画することにより、3日間以上庁舎機能を継続できるようにします。

エントランスプラザを中心とした、コンパクトでわかりやすい平面計画

○2階:窓口機能を集約した全体が見渡せる利用者にやさしい庁舎

- ・窓口機能を2階全体で見渡せる配置とし、すべての人にとってわかりやすい平面計画とします。
- ・エントランスプラザを中心とした動線計画とすることにより、各棟・各階の行き来をスムーズに行えるよう配慮します。

2階

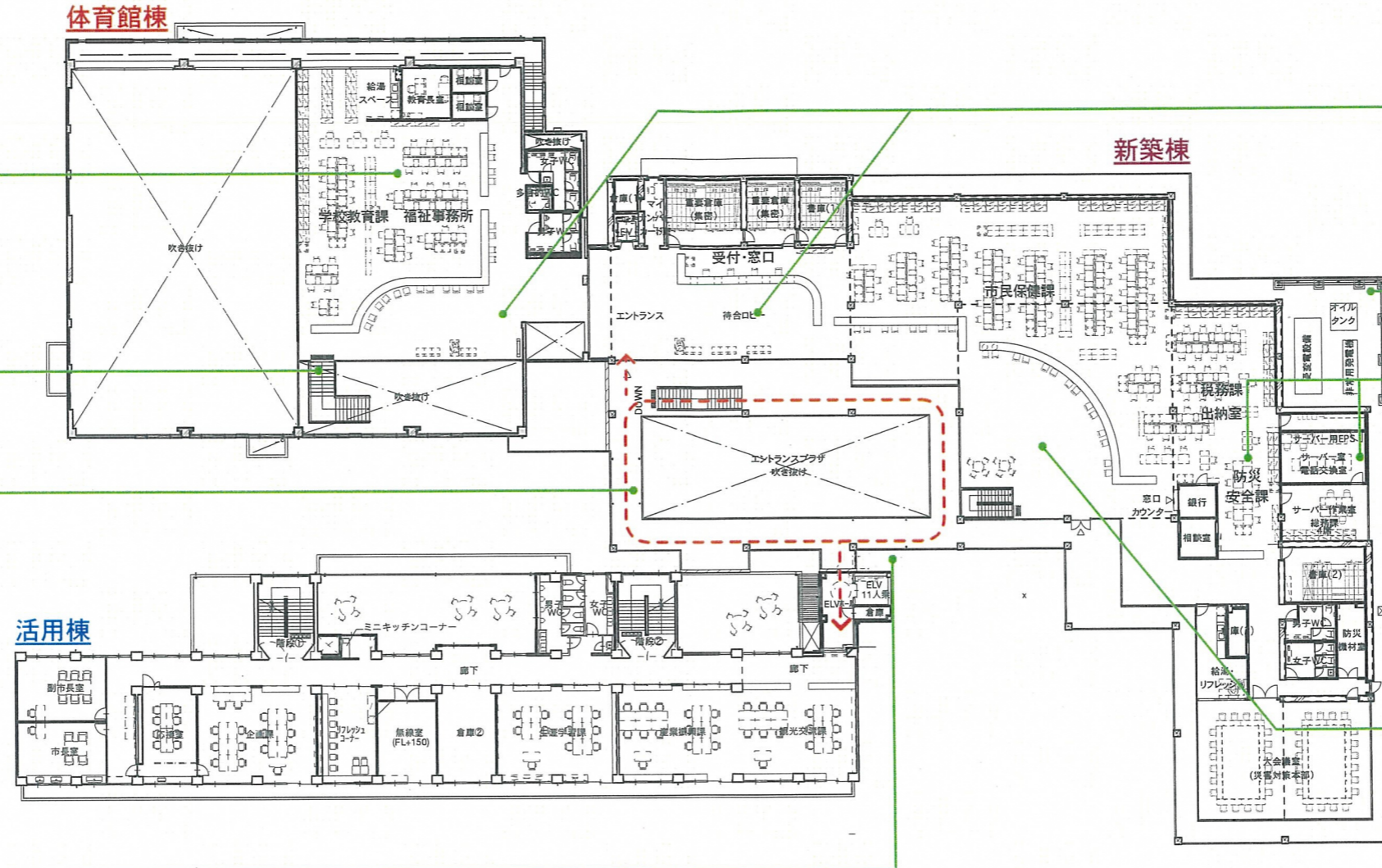
体育館の明るく開放的な空間を活用した執務空間とします。
断熱改修をすることにより、夏場や冬場の温度環境を向上させます。

待合ロビーと市民ラウンジをつなぐことにより、一体的な利用を促進します。

雨に濡れずに3つの棟をつなぐ動線を集約した、回廊状のエントランスプラザ。



階段、エレベーター、渡り廊下など、視認性の良いアクセスとします。



利用率の高い、市民保健課・福祉事務所・税務課の窓口を見渡せる計画とします。



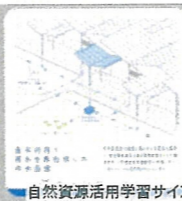
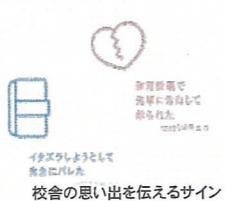
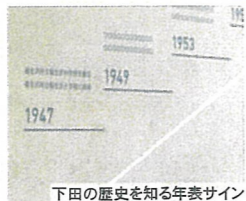
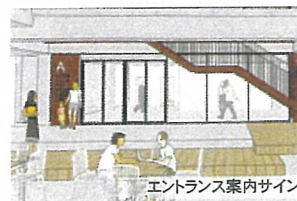
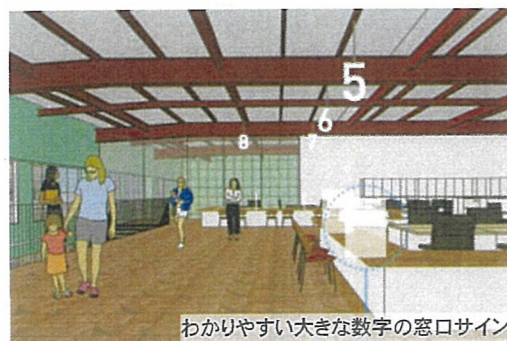
メンテナンスバルコニーにより維持管理に配慮します。

万が一の水害に対しても安全な2階以上に防災、庁舎機能を集約します。

ハイスайдライトを設けて自然光を取り入れることにより、照明のエネルギーを削減しつつ、明るい執務空間を実現します。
プライバシーに配慮しつつ、ゆったりできる広い待合を計画します。

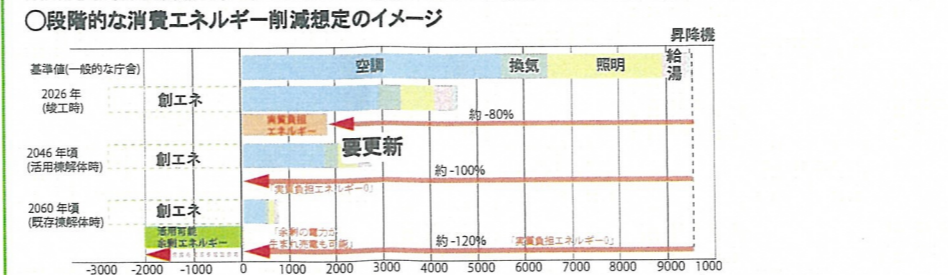
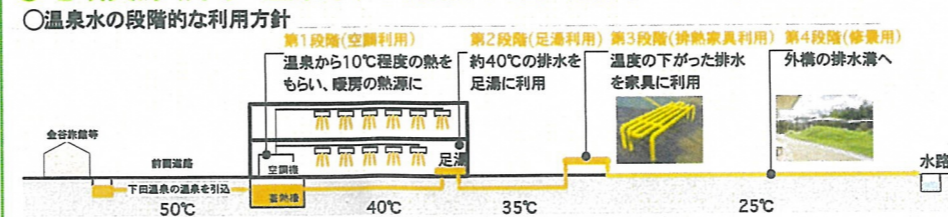


○すべての人にとってわかりやすく、親しみのあるサイン計画



・下田市新庁舎のサイン計画は、庁舎に必要な機能的なサインの他に、下田の魅力や学校の記憶などを未来へと繋げていくための「伝えるサイン」によって、地域の方々の交流や、観光で訪れた方の発見に繋がるようなデザインを目指します。

○地域資源(井水・温泉水)を利用した省エネ計画でゼロエネルギービルを実現



- ・空調の熱源として、夏は井水、冬は温泉を使用することにより、地域資源を活用した設備計画とし、一般的な空調設備機器よりも消費エネルギーを約50%削減します。
- ・熱源利用した地下水は、カスケード利用としてトイレの洗浄水やランドスケープ、足湯として使うことで資源を余すことなく活用します。
- ・竣工時は新築・体育館棟でNearZEBを達成し、活用棟・体育館等が解体された時に完全なZEBが達成できる計画とします。

○将来的な必要面積変化に柔軟に対応できる庁舎

	2026年(竣工時)	中期(約20年後)(活用棟解体時)	長期(約40年後)(既存棟解体時)
想定必要面積	約6,500㎡	約3500㎡~約4000㎡	約1500㎡~約2000㎡
配置			

- ・技術の進歩、人口の増減、求められる用途変化など、時代の流れと共に庁舎の必要面積は変化していくと予想されます。
- ・本計画では、この必要面積の変化に応じて減築可能な計画とすることにより、将来的な維持管理費の削減し、市民の財政負担を低減出来るよう配慮します。

○既存施設を活用し、コスト削減と環境負荷低減の庁舎

- ・旧校舎棟、体育館を活用し、建設費、維持管理費の削減に配慮します。
- ・体育館2階の床は、既存の躯体から切り離された構造体することで、既存躯体に負担をかけず、構造的な既存適及が発生しない構造計画とします。
- ・解体建設に伴うCO2の排出量を全体で約6割削減します。